

# 授業を視る目が育つ！

## 「対話型」授業研究会のススメ 上板町立神宅小学校

Round Study研修法：5つのラウンド（約60分間）で構成されます。Tableごとに3～5名の小グループで行います。

### Round 0：課題を共有する 10分

- 課題を共有し研修の目的を示す
- ルールを確認する
- アイスブレイク

### Round 1：伝え合う 15分

- 各々が考えを伝える（First talk 1分間ずつ）
- ファシリテーターがボードに書く
- とにかく会話を楽しむ

### Round 2：異文化に触れる 10分

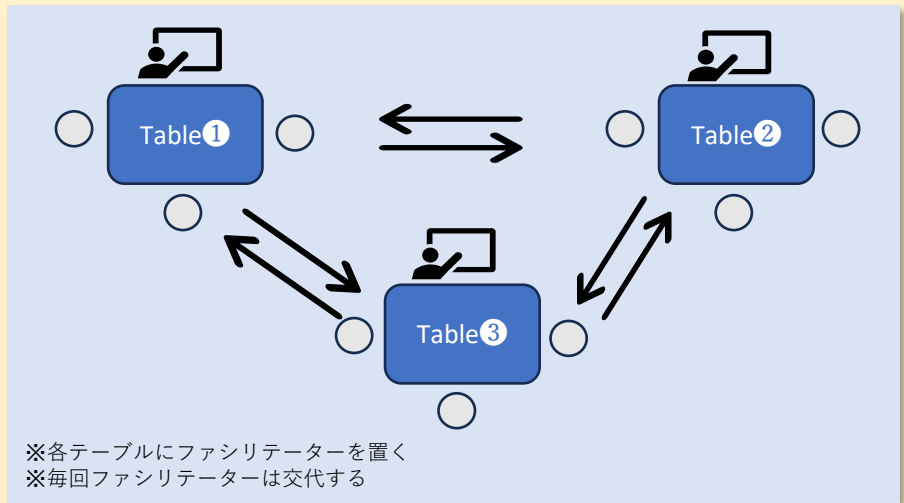
- ファシリテーターを残して席を移動する
- 訪れた人にボードを見ながら内容を伝える
- 比べたりつなげたりしながら語り合う

### Round 3：つなぎ・深める 10分

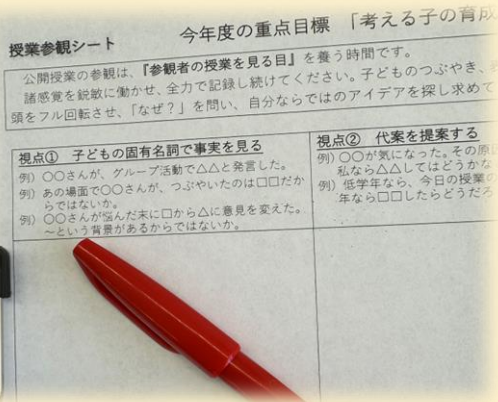
- はじめの席に戻る
- 他のグループの内容を聞いて感想を伝え合う
- 今日の学び、授業に活かすことを付箋に書く

### Final Round：新しい知を創造 10分

- 各自の付箋をボードの貼り付けながら発表する
- 示された付箋をボード上で整理・分析する
- それを見ながら、全員で再度話し合う



「子どもの具体的な姿で成果や課題を語り合おう」と共有し、「固有名詞」で話し始めるというルールにしているのがみんなが必死で子どもの行動、つぶやき、表情まで真剣に視るようになります。それにより若手もベテランも養護教諭もキャリアや立場関係なく、フラットに発言ができます。



「授業参観シート」で参観者の視点を共有する



授業者も一緒に入って具体的な姿を出し合う



学びを付箋に宣言して自分の授業に活かす

授業を見る視点を共有して、みんなが同じ視点で授業を視るので一人一人の授業研究会への貢献度は高いです。ざっくりとしか授業を見ていないとRound studyでは、貢献ができないので次からは子どもの言動だけでなく表情やつぶやきまでしっかり視ようとする目が育ちます。それらをファシリテーターが引き出します。意見をまとめる必要はありません。自然に子どもの姿から授業の本質へと議論は深まります。最後に今日の授業で学んだこと、明日からの授業に活かすことを付箋に書く場面ではさらに参加者の頭がフル回転しているようです。これまでの授業研究会の仕組みを変えることで、グループで貢献するために授業を視ようとする行動が変わり、自分の授業への意識への変容を期待しています。



ミドルリーダー



ラウンドミーティングでふりかえりをする参加者

### 【参加者のふりかえりの声】

- ★Round studyは、参加者一人一人の意識が高いから授業を参観する構え、研究会の参加の構えが以前と全く違う。当事者意識が強くなる。（若手教員）
- ★Round studyのスタイルでメンバーと対話していると教師版「主体的・対話的で深い学び」をしている実感がある。（中堅教員）
- ★これまでの授業研究会は「1対多数」の構造で発言しにくい部分があった。構造が変わることで意見が言いやすいし質問もしやすい。（若手教員）
- ★自分の意見や考えを聞いてくれるから嬉しい。周りが反応してくれるから自分も意見を聞きたいと思う。それは、子どもも同じだと思う。（中堅教員）
- ★授業研究会のスタイルを変えたことで、これまであまり意見を言っていなかった若手教員がどんどん意見を言うように変容した。これを続けることで、授業や子どもを見る視点や意識が変わるだろう。（管理職）